

# 干潟観察会の記録

参加者：美東小学校5年生

実施日：令和3年7月12日（月）、13日（火）

天気：くもり/はれ

講師：佐藤 寛之 先生、藤田 喜久 先生、山里 祥二 先生

泡瀬干潟の観察会では、まず、体調管理や危険生物についての話を聞きます。みんな知ってるハブクラゲだけでなく、食べると毒があるカニなど、海には危険な生き物もたくさんいます。お話の後みんなで干潟に出て、実際に生き物を観察します。紙芝居に出てくるコメッキー（ミナミコメツキガニ）にも会えるといいな。

陸地と干潟の間に、海草やごみなどが<sup>たいせき</sup>堆積してできた線が2本あります。これは、1日にだいたい2回ある満潮の時に波が海草を押し上げることでできます。この海草の下には、ヨコエビなどの小さな生き物がすんでいて、海草をめくるとぴょんぴょん飛び跳ねていました。干潟のすべての石をひっくり返したくなるのをぐっところえて、先に進みます。すると、ついにコメッキーを見つめました。しかも、ちょうどみんなで群れになって食事をしているところです。別名「<sup>ぐんたい</sup>軍隊ガニ」と呼ばれる理由がよくわかりますね。近づくとすぐに砂に潜ってしまうので、その前にみんなで観察できて、とてもラッキーでした。



ヨコエビの仲間が飛び跳ねてる！



準絶滅危惧種のカワラガイ！



食事中的コメッキーがいっぱい！



テッポウエビの仲間を発見！



岩の穴や隙間にカニが隠れている

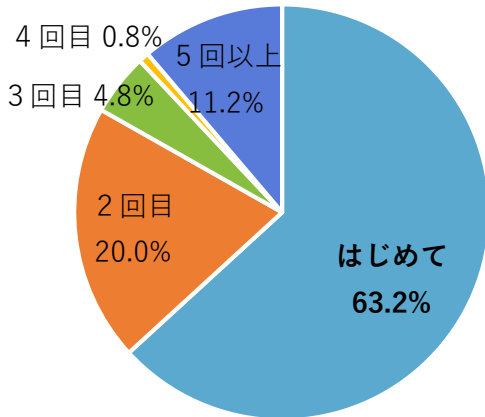


大きな二枚貝 ハボウキガイ

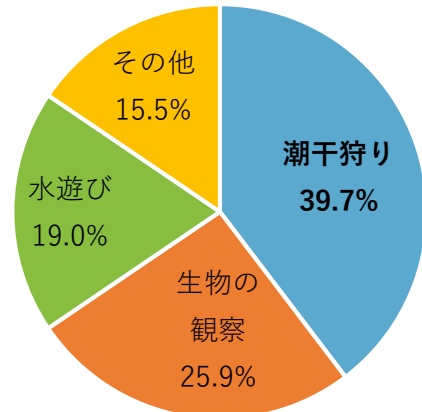
# アンケート結果

参加してくれた美東小学校5年生にアンケートに回答してもらいました。

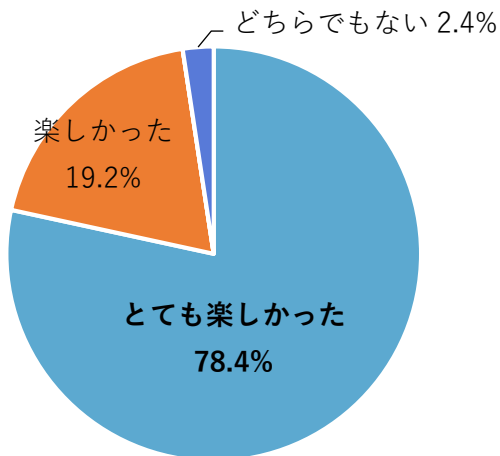
Q1. 今まで、泡瀬干潟に行ったことはありますか？



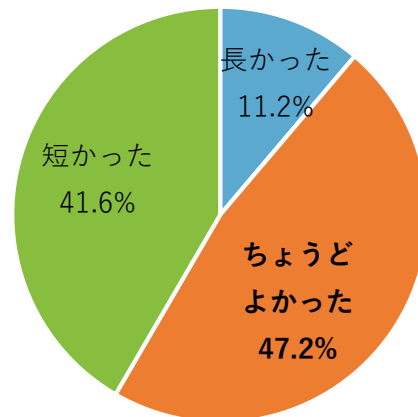
Q2. 今まで泡瀬干潟に行ったことがある人は、干潟に何をしに行きましたか？（複数回答）



Q3. 観察会は楽しかったですか？

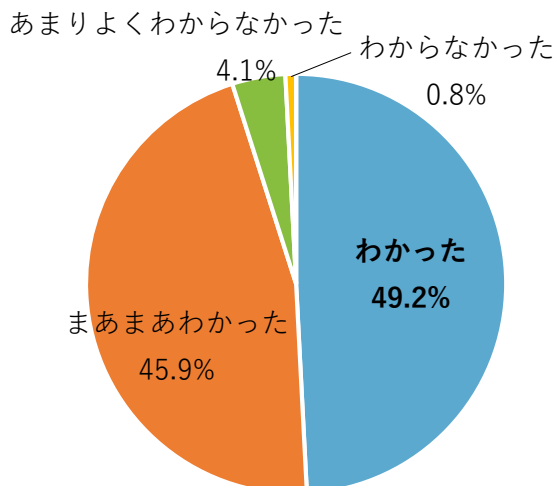


Q4. 観察会の長さは長かったですか？短かったですか？

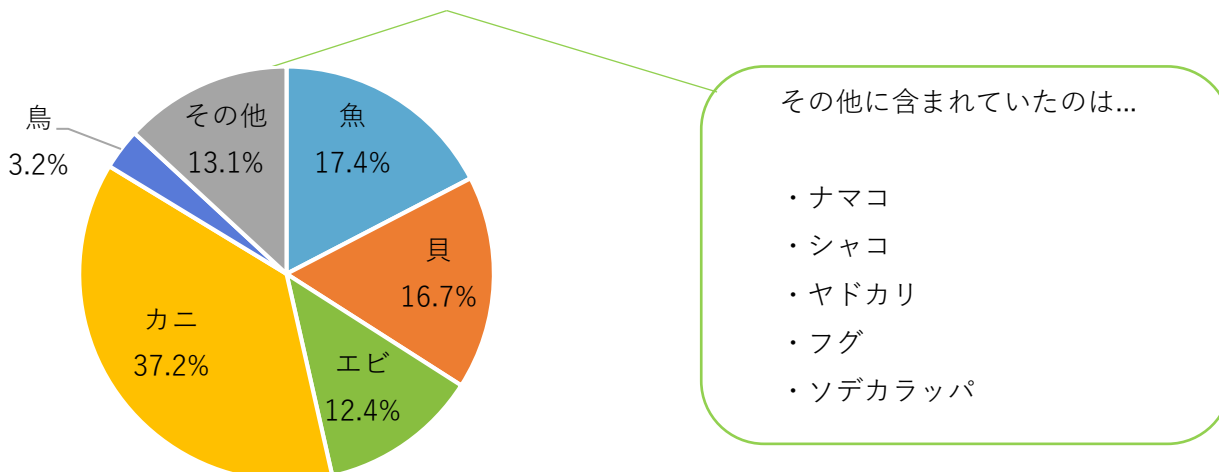


Q5. 干潟の役割や干潟にいる生き物について

わかりましたか？



Q6. どのような生き物が印象に残りましたか？（複数回答）



Q7. 川や海をきれいにするため、気を付けていることはありますか？  
また、そのためにどのような取り組みが必要だと思いますか？

- ・海に赤土がでないようにしないとだめ。
- ・気を付けていることは、ポイ捨てをしないことです。そのために、ボランティアなどでゴミ拾いなどの取組が必要だと思いました。
- ・川や海をきれいにするには、ゴミをすてないことだと思います。ゴミをまちがえて海の生き物が食べてしまうからです。ゴミを海の生き物が食べないように、ゴミ拾いをしたり、ゴミをすてなかったり、ゴミをきちんと持ちかえる... などの取り組みが必要だと思います。
- ・エナジードリンクがおちていたので、海にゴミをすてないで！！って書いたはり紙をはったらいいと思います。
- ・岩をひっくり返したらちゃんともどすこと。
- ・海だから、あまり人に見られてないだろうとゴミを捨てたりして、沖縄の海をダメにするのはいけないと思います。
- ・まずゴミをあまり出さないようにしています。
- ・海の生き物たちを大切にすることも伝えた方がいいと思いました。
- ・生き物を観察したら、いた場所にかえす。生き物も生きていると思えばいい。
- ・遊んでいる時に海にぞうりなどが流されないようにしている。そのため、海で遊ぶ時にぞうりをとる時は波から何mくらいか離れている。
- ・プラスチックやストローなどをぽいすてしないということを、気をつけたいなと思いました。
- ・友達が川や海にゴミをすてようとしたときに声をかけて、ゴミ箱に捨ててと言ったらやってくれると思うから、それをやったら魚、エビ、カニ、他の生き物がおちついて生活をできるからです。

動物も植物も  
みんな生きていますよ！

干潟の観察会では、生き物のすんでいるところにお邪魔して、すみかとなっている岩やサンゴをひっくり返して観察しました。観察後はひっくり返したものを元に戻すことも大事ですが、手に取った生き物を元いたところにそっと返してあげることもとても大事です。

また、海に落ちているゴミは、そこで捨てられたものだけでなく、外国から流されてきたものもたくさんあります。沖縄や日本だけでなく、世界中の人々と一緒に川や海を守っていくにはどうしたらよいのでしょうか？

Q8. ふしぎに思ったことや、感想を教えてください。

- カニなどの動物の色が鮮やかだった。ナマコの体がぶよぶよして気持ちよかった。
- あさかったけど、魚がたくさんいました。きれいな魚でした。
- 友達とカニやエビ、他の生き物を観察できてとても楽しかったです。そして、あぶない生き物を教えてくれて、勉強になりました。また、みんなで行きたいです。
- きけん生物がいっぱいいると聞いてこわかったです。
- ちょーでっかいナマコがいた。
- ひがたの生物たちは生きるのにも必死でいたので、生命力が高いと思いました。
- カニを見つけようとしても、すぐ穴にもぐったり、にげるので、とてもつかまえずらかったです。ふしぎだったのが、「ケブカガニ」です。「ケブカガニ」は穴にもぐったりするのではなく、自分の体だけで身を守って生きているからです。とてもおどろきました。
- ミナミコメツキガニのコメッキーは前にすすんだり、回転してあなをほったり、カニにはない印象でした。
- コメツキガニは想像以上に丸かった。
- あわせ干潟の観察会の時間が短かったから、次は家族みんなできて、長いあいだ観察したいです。
- 魚を二匹つかまえられてうれしかったです。あさいところにもいるんだなとふしぎに思いました。
- 干潟はもともと好きだったので、とても楽しかったです。
- さいしょはカニがいっぱいいました。とてもかわいかったです！ヤドカリやエビもいました。魚がいたときに、とてもつかまえたくなりました（笑）でも、すばやくて、つかまえられなかった。でもコメッキーを見れてとてもうれしかった。
- 海にはあまり行ったことがなかったので、いい体験にもなったし、いい思い出にもなりました。ありがとうございました。4月には赤ちゃんたちが生まれるので、水茶ちゃんという家の代わりみたいなものがあったのですごいと思いました。
- ひがたの生き物はかくれんぼの名人ばかりだと思いました。コケみみたいなケブカガニやナマコをつかまえたときにそこにいたんだとびっくりしました。
- イボテガニが意外と丸かったことにびっくりしました。もぐり方もとくちょうがあり、両うでで、かきよせるようにほっていたので、おもしろいな～と思いました。
- とても楽しくて、時間が早くかんじました。
- ナマコの最大の長さは何 cm かきになりました。
- 海には、いろいろな生き物がいて、大切にしようと思いました。
- 干潟にはいろいろな生物がいて、それぞれ役わりがあることがわかりました。

ハウシュノタマという貝が卵を産むときにできる砂茶碗すなちやわんかな？

たくさん測はかって、自由研究じゆうけんきゅうにしてみよう！

- なぜ泡瀬干潟は干ちようになったり、満ちようになったりするのかがふしぎになりました。
- 魚は海がひいたあと、どこに行ったのか？
- 私はミナミコメツキガニはしおが満ちてきたら、陸にもどるのか、それとも海の中に残って水中のすなにもどるのかがふしぎに思います。
- カニやヤドカリなどは、満ちているとき、引くときも、時間だとわかって出てくるのですか？

主に月の引力によって、海の水が引き寄せられて満ち潮みしほになったり、月が遠くなると水が減って干潮かしかうになったりします。生き物が海の満ち引きをどうやって知るのかは、はっきりとはわかっていませんが、潮が引いている間、生き物は水があるところにいたり、砂すなに潜もぐったりしています。ミナミコメツキガニは潮が満ちると砂に潜って、次の干潮を待つよ！

- カニや貝はどのようにして自分の身を守っているの？
- カニなどが石の下にいてもつぶれないのがふしぎ。
- なぜカニは砂にもぐるのかふしぎになりました。
- 石の下にいる生物は何を食べているのか気になった。
- 干潟にいたカニはなぜ岩などの下にいるの？

カニや貝は外敵がいてきや太陽の熱さから身を守るために、石の裏うらや隙間すきま、砂の中などに隠れていることがあります。植物を食べる生き物や、プランクトンや小さなカニなどを食べるものまでいろんな種類の生き物がいます。

- ナマコの体からでる白い物はねばねばしているとわかりました。
- ナマコはないぞうをはき出すことはありますか。そしてナマコとユムシって同じ仲間なんですか。
- ナマコはなぜプニプニで、顔がどこにあるかわからないの？

ナマコは敵てきに襲おそわれたり、刺激しげきを受けたりすると肛門こうもん（お尻側）から内蔵しりを吐き出します。白いネバネバが内蔵ないぞうの一種で、吐き出した内臓は数カ月で元通りになります。ナマコには目はないですが、下向きに口がついています。

ナマコはウニやヒトデと同じ仲間、ユムシはミミズやゴカイの仲間です。

- なんでシオマネキは、片方だけハサミがオスは大きいのか、メスは両方小さいのか。

大きなハサミにはいくつか役割がありますが、1番はメスにアピールするためです。メスを巡って喧嘩けんかするために使うこともあるようです。大人になる前にどちらか一つのハサミを自分で切り落とすことで、反対側のハサミが大きくなります。

- トントンミーはどうして水面を走れるのか気になったし、不思議に思いました。

トントンミー（ミナミトビハゼ）は胸ビレを使って歩いたり、ジャンプしたりするように移動することができるよ！

- 小さい穴があったけど、中にカニがいなかった。
- 大きい穴は何の生き物の穴なのか？不思議に思いました。
- なんでカニは列になって食べるの？どうして横あるきじゃないの？かがふしぎに思いました。

小さい穴は、カニなどの甲殻類の他に、ゴカイやユムシ類、ギボシムシ類、魚類などがすんでいるものかもしれません。大きい穴はカニやシャコの巣穴かな？コメツキーも小さな穴を掘るよ。コメツキーは潮の引いた砂地で食事をするため、潮に合わせて群れをつくりまわります。多くのカニが横歩きをするのは、前に歩くと脚がぶつかってうまく歩けないためで、コメツキーは前に歩いても脚がぶつからないようになっています。

- カニのハサミが青かったりするの？

タイワンガザミかな？毒はないけど、オスのタイワンガザミは鮮やかな青のハサミを持っているよ。

- 水たまりにカニのからがあった。だれが食べたのか気になった。

きっと死がいではなく、カニの脱皮殻じゃないかな？エビやカニは古い殻を何度も脱ぐことで成長するよ。

- カニはどうやってかわをぬぐのか。

カニは甲羅の背中とお腹側の間が割れて、そこから後ろにはい出すようにして脱皮します。ハサミも脚もきれいに脱げるので、生きてると勘違いするほどきれいです。脱皮直後は殻がやわらかく、傷つきやすいので、あまりさわらないようにしてあげましょう。

- 夏はとてもあついけど、カニたちはあついのかふしぎに思った。

カニや他の生き物たちも暑いと感じています。近年、地球温暖化の影響で、例えば、北極などの寒いところにすんでいた生き物が生きられなくなったり、南にいた生き物が北に移動したり、高いところに移動したりしているよ。また、花の開花時期も年々早くなっているところもあるようです。

- どうして動植物にはいろいろな種類がいるのか気になった。
- なぜ、カニの名前があるのか。だれがつけたのかふしぎです。

地球ができてからこれまでに進化と絶滅を繰り返して、現在、数えきれない数の生き物が生息しています。植物も、カニも、人間も、祖先をたどれば元々は同じ生き物だったそうです。また、それぞれの生き物の名前は、そういった生命の進化を考えるためや、人々が同じ種の話をするのに便利なように、人間（例えばその生物を研究する人や初めて見つけた人）がつけています。便利なようにとは、例えば、見つけたカニが、食べるとおいしいとか、毒があるから危ないとかを他の人に知らせるときにも、名前がないと同じカニを指しているのかわからないですね。